

天智天皇祭と御陵・御陵日時計

毎年一月十日には天智天皇祭が行われています。これは天智天皇十年十二月三日に崩御されたと日本書紀に書かれている記事にもとづき、これを太陽暦に換算すると西暦六七二年一月十日となるので、この日をご命日として、近江神宮で祭典を行っているものです。山科にある天智天皇の御陵でもこの日（十日が土日などの場合はその前日）に御陵正辰祭を行っており、近江神宮での祭典後、官司以下御陵に赴き、正辰祭に参列します。

山科の御陵は延喜式には東西十四町・南北十四町（一五〇〇メートル四方）という広大なものと記され、江戸時代の改修で現在の広さになったようです。墳墓の部分は一辺七〇メートルほどの上円下方墳、上円部は本来は八角形であったと考えられています。平安時代以後、永きにわたってご命日には朝廷からの奉幣が続けられ、今日の考古学的な見地から治定には誤りはないとされています。

御陵の周辺の広域地名を御陵（みささぎ）といい、地下鉄の駅名ともなっており、所在地の町名は御陵上御廟野（かみごびよの）町といいます。山科の人々は古くから御陵とかかわり深く生活してきたでしょう。御陵の入口には垂直型の日時



天智天皇御陵と参道



計がありますが、これは昭和十三年に京都時計商組合がその創立二十周年記念に建てたもので、現在に至るまで東山時計組合では六月の時の記念日・漏刻祭前には毎年御陵の清掃奉仕と日時計の維持活動をしておられます。

↑御陵入口の日時計

天智天皇勅願寺 誓願寺

京都の中心部、新京極の一角に誓願寺という寺院があります。平安末期以降浄土宗となり、現在は浄土宗西山深草派の総本山となっていますが、もともとは天智天皇六年（六六七）、勅願により創建されたものです。勅願によって二人の仏師に別々に仏像の半身づつを造らせていたが、合体すると寸分違わず合致して見事な仏像ができあがり、御本尊となったという伝説があります。



誓願寺本堂

一月十日の天智天皇祭の日には、誓願寺管長以下の方々が、山科山陵に参拝のち近江神宮にも参拝されるのが恒例となっています。清少納言や和泉式部が念仏を唱えながら往生したところとしても知られ、謡曲『誓願寺』には和泉式部と誓願寺とのゆかりが物語られています。また落語の祖とされる安楽庵策伝は江戸時代初期の僧侶であり、落語ゆかりの寺でもあり、芸道上達の祈願所としても知られます。

辰・竜ゆかりのことば

竜は天子のたとえや英雄を表わすことば、縁起のよいことばに多く用いられます。

竜門は黄河上流にある急流の名前で、鯉がここを登ることができれば竜になるという伝説から、立身出世や一流の人物として世に出る飛躍の関門のことを登竜門といいます。

中国古代のある画家が壁画に白竜を描いていて、その瞳を書き込んだところ風雲が起こりたちまち本物の竜になって天に昇ったという故事から、大切な部分に手を加えることで全体が引き立つことを画竜点睛（睛は日偏ではなく目偏で瞳のこと）といいます。逆に大部分ができあがっているのに肝心な一点が不足していることを画竜点睛を欠くといいます。

水や雲は竜と縁が深く、力を秘めていた人が機会を得て盛んに活躍することを「竜の雲を得るが如し」「竜の水を得るが如し」といいますが、さらに「雲は竜に従い風は虎に従う」といえば、それぞれにふさわしいものを伴うことによつて物事がうまく行くことのとたとえであり、「竜の翼を得たるが如し」となると一層力を増すことになります。

『開運暦』訂正

平成二十四年『開運暦』三十六ページ「方位吉凶早見表」の題字に辛卯歳とあるのは壬辰歳の誤りであり、また四十ページ「年齢早見表」の上欄の九星欄のうち、五黄・四緑・・は正しいのですが、金星・土星等が昨年の位置のままとなっており、九星の名称と星の名との対応がおかしくなっています。金星・土星等の星の名のみ右欄にずらして見ていただきますようお願い致します。それぞれ校正漏れにより二十三年のままとなってしまうものであり、お詫び申し上げます。



齋館の修理補強工事

近江神宮社務所続きの通常齋館と呼んでいる建物は、勅使齋館として建てられたもので、四月の例祭の折には勅使に参籠していただいております。貴賓館としても用いられた天皇陛下のご参拝の際にもご休憩いただいた建物ですが、近年ゆがみが大きくなり、本年七月より、基礎から持ち上げ補強するための工事を行っています。まもなく年内には竣工する運びとなっています。

年末年始の祭典等

- 十二月十三日午前九時 門松立て
- 十二月二十日午前九時 煤払祭
- 十二月二十三日午前十時 天長節祭
- 十二月三十一日午後三時 年越大祓式（続いて）除夜祭
- 一月一日午前〇時 歳旦祭（さいたんさい）
- 一月一日午前七時二分 初日の出遥拝式
- 一月二日午前八時三十分 日供始祭（につくはじめさい）
- 一月三日午前八時三十分 元始祭（げんしさい）
- 一月七日午前九時 昭和天皇祭遙拝式
- 一月七日午前十時 昭和三十九年位決定戦
- 一月八日午前九時 かるた名人位クイーン位決定戦
- 一月十日午前八時三十分 かるた祭・高松宮記念杯全国歌かるた大会
- 一月十五日午前十時 天智天皇祭（天智天皇のご命日）
- 二月三日午前十時 古神札焼納祭
- 二月十一日午前十時 節分祭
- 紀元節祭

講社通信は近江神宮ホームページでカラーで見られます。

<http://onmi.jingu.org/>